

住友理工グループ

「2025 年度小牧市自然共生パートナーシップダイアログ」

報告書



目次

1. 目的	… P.3
2. 概要	… P.3
3. テーマ	… P.4
4. スケジュール	… P.4
5. 基調講演	… P.5
6. 施策、取組紹介	… P.5～P.6
7. ダイアログ(対話)	… P.6～P.10
8. 総合ファシリテーター総括	… P.10～P.11



1 目的

自然共生に関わる小牧市の多様なセクター（企業・行政・市民団体・大学・中学校など）が、自然共生に関するダイアログ（双方向の対話）を行うことで、活動のやりがいや地域連携の深化につながり、小牧市の自然共生活動がこれまで以上に活気づき、地域の価値が向上することを期待するものです。

2 概要

・日時 2026 年(令和 8 年)1 月 26 日(月)13:00～15:45（受付 12:45～）

・場所 小牧市役所 東庁舎 5 階 大会議室

・主催 住友理工株式会社

・参加者

●基調講演、ダイアログファシリテーター

増田 理子 氏 名古屋工業大学 社会工学専攻 教授

●ファシリテーター

秦野 利基 氏 特定非営利活動法人こまき市民活動ネットワーク 顧問

●ステークホルダー

西郷 大樹 氏 愛知県自然環境課 生物多様性保全グループ 課長補佐

飯田 泰地 氏 愛知県自然環境課 生物多様性保全グループ 主任

梅村 知成 氏 小牧市 環境対策課 課長

大平 守 氏 小牧市 環境対策課 係長

郡 麻里 氏 名古屋経済大学 経営学部 准教授

小沢 通男 氏 大山川をきれいにする会 会長

馬場 容子 氏 兒の森活動グループ 会計

鳥居 郁夫 氏 愛林会 代表

水野 志帆 氏 小牧市立光ヶ丘中学校 教諭

宮田 章 氏 CKD 株式会社 サステナビリティ推進部 部長

山田 純市 氏 CKD 株式会社 総務部 部長

●住友理工

藤門 真二 小牧製作所長

野口 貴之 環境推進部

（事務局）

環境推進部 棚橋 英明、伊藤 かおり、渡邊 泰秀、鈴木 壮琉、仁木 伸明

3 テーマ

『ともに高め合い、つながりを広げ、 未来へ紡(つむ)ぐこまきの自然』

4 スケジュール

当日のスケジュール

時 間	項 目	
13:00	趣旨説明 参加者ご紹介	住友理工
13:05	生物多様性に関する基調講演 標 題：『生物多様性の保全のために』	名古屋工業大学 増田教授
13:30	行政の生物多様性施策紹介	・ 愛知県自然環境課 ・ 小牧市環境対策課
13:42	企業の実践紹介	・ 住友理工株式会社 ・ CKD 株式会社
13:54	参加皆様の実践紹介発表（4団体）	・ 名古屋経済大学 ・ 兒の森活動グループ ・ 大山川をきれいにする会 ・ 愛林会、光ヶ丘中学校
14:19（10分）	休憩	
14:29	ダイアログ	全員
15:29	総括	秦野ファシリテーター
15:45 頃	終了	
	記念撮影	全員



5

基調講演

名古屋工業大学 増田理子教授

「生物多様性の保全のために」

大草のマメナシ自生地において、小牧市が自生地の復活のために実施した大規模な工事（移植されたマメナシの伐採、盛土の除去）の事例を挙げて、「自生地を取り戻すためには環境を整えることが大切」「移植は最後の手段（マメナシはまだこの状況ではない）」「移植を行った場合の問題点」など、生物多様性の保全の考え方について、分かりやすく説明していただいた。



6

施策、取組紹介

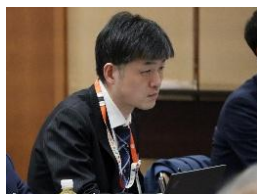
（敬称略）

➤ 行政の生物多様性施策紹介

●愛知県は「あいち生物多様性戦略 2030」を策定し、2050 ビジョンとして「人と自然が共生するあいち」、2030 年目標としてネイチャーポジティブを掲げている。「全ての主体の協働により生物多様性の保全を進める」こととし、その推進のために、マッチング制度、専門家派遣、あいち生物多様性企業認証制度などの仕組みを整備している。（愛知県 西郷）



●小牧市環境都市宣言で「良好な環境を保全し、自然と共生するまちを目指します」を掲げ、あらゆる主体が協働して取り組むことを宣言した。また昨年 3 月には、小牧市生物多様性地域戦略を策定した。住友理工とは連



携協定を締結し、市民を含めた連携により、生物多様性の保全や環境教育活動を行っている。（小牧市 梅村）

➤ 企業の取組紹介

●事業に関わる「水」を守っていく自然共生活動として、大山川を中心とした「小牧モデル」を展開している。地域との協働なしに活動は進まないため、2023 年度から自然共生ダイアログを開催しており、小牧市とも連携協定を締結した。行政、市民、専門家の皆さまと連携して、小学生による水生生物調査、マメナシ保全活動、オオキンケイギクの駆除などに取り組んでいる。（住友理工 野口）



●CKD は環境負荷低減

を重要な経営課題とし、生物多様性に取り組んでいる。環境負荷低減として、CO₂ 削減、水使用量・廃棄物削減に取り組み、自然保護活動として、あいち海上の森センターでの森づくり活動や、小牧市主催の大山川クリーンアップ活動に取り組んでいる。（CKD 宮田）



➤ 参加皆様の取組紹介

●環境学習として学生と一緒に、学内での樹木ラベル設置、特定外来生物パトロール、オオキンケイギク駆除と効果の検証、竹林整備などを行っている。また、ダイアログでの繋がりを活かして、行政や企業による学生への環境講義を開催し、竹藤商店に協力して頂いて竹講座などを実施した。

（名古屋経済大学 郡）

●兒の森を、安心・安全に楽しんでもらうための里山整備と、子どもたちの健全な育成のための自



然体験の支援を行っている。将来に渡って、①里山整備、②兒の森里山自然体験講座（小中学生対象）、③里山分校（大人、家族対象）、④イベント参加や出前講座、の4つの活動が継続していること、参加した子どもたちがメンバーとして活動してくれていることを思い描いて活動している。

（兒の森活動グループ 馬場）

●大山川の不発中央橋から上流の大井前橋の間約700mで活動を行っている。草刈りやごみ拾い、花壇の整備などの活動の



他に、春には花見の会を催している。疎遠になった地域の交流と親睦を図ることを最大の目的としている。遠い将来かもしれないが、ホテルが飛び環境に戻ればいいなと思っている。（大山川をきれいにする会 小沢）

●桃花台の緑の環境を整備している。光ヶ丘中学校との協働活動は15年くらい続けており、今一番力が入っている。中学生



の環境教育として、竹林整備で竹を切ってチップにしたり、落ち葉でカブトムシの幼虫のお宿を作ったり、オオキンケイギク駆除をしている。貴重野草であるユウスゲの保全活動も行っている。

（愛林会 鳥居）

●光ヶ丘中学校は、各学年、年2回授業で愛林会と保全活動を実施している。1年生春のオオキン



ケイギク駆除では「黄色いお花、あれ外来種なんだ」という感じだったのが、卒業前の竹林整備では「里山が誰かの手で守られてきたことを自覚した」「自然を守ることに貢献出来て気持ちがいい」と振り返っていた。この経験が、将来何かにつながっていくと感じている。皆様と協力してこれからも継続していきたい。（光ヶ丘中学校 水野）

7

ダイアログ(対話)

➤ 企業の自然共生活動への協力

増田（ファシリテーター）：今回の発表を聞いて、小牧で皆さんが大活躍されていることが分かった。愛林会と名古屋経済大学が粉碎機を借りて竹チップを作るという話があった。秦野さんの会社が無償で貸しているが、何故、慈善事業のようなことを企業がやっているのか。



秦野（こまき市民活動ネットワーク）：竹藤商店という創業113年の会社で竹の商売をやっている。昔はいろいろなところで竹が使われていたが、生活環境の変化などでプラスチックなどの素材に変わっていった。また、昭和35年から40年に真竹が一斉に開花し竹林が枯れ、そのため、台湾から竹の輸入を始めた。やがて、より安い中国から輸入するようになり、結果的に日本の竹産業が大幅に縮小した。竹林が放置されたことを振り返って自責の念を持つようになった。そこで、我々の出来ることを考えたとき、多くの団体が竹林の整備などを行っているが、高齢化や人が増えないことで苦勞しているのをみて、粉碎機を購入して、こまき市民活動ネットワークを通して無償で貸し出すことを始めた。



増田：過去の商売から、このような協力の形になり、非常に大きな力になっていると思う。

➤ 活動の継続性

増田：今の話にもあったように継続はなかなか難しいが、愛林会さんと光ヶ丘中学校は非常にうまくやっている。どういう工夫をされているのか。

水野（光ヶ丘中学校）：教員も全力でやる姿を見せ、一緒に学ぶ姿勢でやっている。また生徒は、自分たちがうまくノコギリを使えないのに、愛林会の方が軽々と切ったり運んだりするのを見て、

尊敬のまなざしで見ている。身をもって体験しているから、すごいと素直に感じている。愛林会の人たちが毎週活動していると聞いて、ちょっと覗いてみようと言っている子どもたちもいた。やらされ感でないのが、大事なことかと思う。



鳥居（愛林会）：もう 15 年になる。最初は先生も何をやれば良いかわからない状態だったが、5 年も経つと、先生が動いてくれるようになった。先生が動くと子どもも動く。私があまり言わなくても、ここを切ると言えば、先生と子どもたちがやってくれるという感じです。

増田：こんなにうまく行っている活動はなかなかないが、愛林会さんはメンバーが増えないという継続性が課題ですか？

鳥居：私が 82 歳で他も 70 代後半、新しい人もほばいないので、光ヶ丘中に頑張ってもらい、私がいなくても出来るようになって欲しい。桃花台の緑の環境を光ヶ丘中の生徒が守っていくという感じになれば良いと考えている。

増田：水野先生の負担がかなり大きいと思うが、負担をサポートできる形になればよいと思う。

増田：大山川をきれいにする会は人数も減らずに継続されている。工夫等をお聞かせ願えませんか。

小沢（大山川をきれいにする会）：ワクティブこまきが良い役割を果たしている。知らない人を誘うのは難しいが、ボランティアと市民団体の間を取り持ってくれ、昨年は 40 代くらいの人が入ってくれた。また、続けるためには遊びを入れるということ。花見などをやって、親しくなる。それがないと続かない。

増田：楽しみを入れて、人を増やすっていう方向はなかなか良い示唆だと思う。

増田：市役所として、ボランティアを紹介する取り組みはあるか。

梅村（小牧市）：ワクティブこまきを通じて、市民団体を紹介している。

➤ 活動の継続と資金面のサポート

増田：愛知県としての保全活動へのサポートは？

西郷（愛知県）：「あいち森と緑づくり税」を活用してもらっている。また、生態系ネットワーク協議会もあり、メンバー間で情報交換を行い、地域の活動に役立てていただいている。

増田：「あいち森と緑づくり税」が使えると便利だが、馬場さんの所は使われているか。

馬場（児の森活動グループ）：小牧市のこども政策課から依頼を受けている里山自然体験講座の講師代と、みどり公園課がやっていた里山整備を引き受け活動しているので、「あいち森と緑づくり税」は使っていない。

増田：「あいち森と緑づくり税」は、中学校と連携した活動にも使えるか？

西郷：制限や上限はあるが使える。

増田：郡先生は、「あいち森と緑づくり税」を使っていると思うが。

郡（名古屋経済大学）：事前に予算を計上しておけば、融通がきくタイプの補助金で、ノコギリや軍手とかの購入には使いやすい。

増田：企業が申請すること
も可能か？

飯田（愛知県）：企業と団体が協議会のようなものを作って申請すれば使える。



➤ 自然共生活動への企業の参加

増田：企業として、「あいち森と緑づくり税」の活用をどう考えるか。

藤門（住友理工）：内容による。日頃の活動なら費用のハードルは高くはない。ケースバイケースでお願い



する場合もあると思うが、予算枠もあるのであまり使うと申し訳ないという気持ちもある。

宮田（CKD）：CKD も経営層が共感すれば、お金は出る。企画がまだ十分できてないが、しっかり企画して上を説得すれば、自社のお金が使えるので、そういうところに力を入れていきたい。

山田（CKD）：ハードルはそれほど高くないので、社員の多くが参加できるような企画を考えていきたい。



増田：単発の大規模なイベントよりも、生物多様性は持続性が大切。そういう面で難しい取り組みだと思う。企業でいろいろ企画していただければ、小牧の自然を守っていくのに非常に良いと思う。

➤ 子どもたちへの環境教育の継続性

増田：馬場さんのところは、参加する子どもたちが結構変わると思うが、そういう人たちの継続はどのような感じか？

馬場：自然体験ができるようにと生まれたのが里山自然体験講座ですが、実は光ヶ丘中の 2、3 年生の方も小 3 から継続して参加している。講座には約 20 名が参加しており、子どもたちの中で、来年も参加しようね、という輪が広がっている。来年で 20 周年だが、いろいろな学校の子どもたちが集まるので、長年やっているということ起きるのになって、しみじみと感じている。

➤ 参加者募集、情報発信

増田：若い人を集める方法は、どうしているか？

馬場：こども政策課がチラシを作り募集して、子どもたちが登録するというやり方。

増田：チラシはどこに配っているのか。活動団体もそういうところにチラシがうまく配られれば、市民参加が大きくなると思うが。

馬場：小中学生対象なので、4 月にチラシを学校へ配る。ただし、ペーパーレスで、中学では学級に 1 枚になり、紙面も A3 から A4 になるとの話もある。将来的には紙でなく電子データで各保護

者に展開されると思うと、そういうのが苦手な親御さんに届くのかという心配はある。

増田：ペーパーレス化は環境にとって重要だが、企業はペーパーレス化が進んで、連絡が伝わらないことはないのか。大学では掲示板を見てない人が、情報から取り残されることが多くある。

野口（住友理工）：社内報なども紙で配られていたが、社内ホームページを閲覧する形になり見逃す人は出ていると思う。自然共生の情報発信も、社内ホームページで発信しているが、認知度がなかなか上がらない。全員に電子メールを送る方法もあるが、それには自然共生に関する関心を高めてもらい、メールが来ても迷惑がられないような雰囲気、風土を作っていくと難しい。逆に反発を持たれては活動が進まないの、状況を見ながらうまく進められればと考えている。

➤ 意識を上げることが重要

増田：中学校で困っていることは？

水野：教員もそうだが紙であれメールであれ、見ない人は見ないし、見る人は見る。個人の意識の問題と思っている。

増田：これすごく大事なことで、個人の意識を高めていかないと進まない。生物多様性は 1 ステップで役に立つものではなく、2 ステップ 3 ステップで初めて自分に戻ってくるものなので分かりにくい。そうすると、この生物多様性の文化を醸成していくことがすごく重要だと思う。

増田：秦野さんに話を戻して申し訳ないが、竹を輸入していろいろなことが悪かったと気付いたのはいつ、どのようにですか？

秦野：薄々気づいたのは 20 年くらい前。市民活動を支援する組織づくりに関わり、3R や環境保全を学ぶ中で振り返ってみると、自分がやっていたことが何となく違うんじゃないかと。近所の川でゴミが捨てられているのが悲しく、会社として川掃除も続けていた。一方で、竹林整備をしている団体が増えてきたものの、会社として全員がボランティア参加するのは難しい。何とか機会を作

ってやらなければという悶々とした悩みを抱えていた。活動支援を勉強していく中で、粉碎機1つ250万円するが、これを購入して現場まで届けることをやり始めた。時間と労力が掛かるが、やりたかったことだと考えてやった。その中で社員と一緒にやることで、会社の価値を考えるのにごく勉強になり、プラスになった。そのうち社内でも社会に役立っているという実感がどんどん出てくるようになった。自分たちの行動が社会に役立っていると思える人たちが1人でも多く増えていけば、何かが変わるんじゃないのかと考えている。本当は、竹の利用価値を生み出さなければという悩みもありますが、これを継続しながら、いつか竹という天然資源を広く使う社会になればいいなと。そんな思いを抱きながら、今の時間を過ごしている。

増田：その気付きはすごく大事だと思う。

➤ 自然共生活動の価値

増田：皆さん社会に良いことをされているという自覚は、どんな感じですか？

小沢：私たちの会は、会費と県からの補助金をいただき、草刈り機などは個人負担。活動を5、6年やっているが、みんな元気になった。環境活動をやっていると、世の中のためになっているという満足感、それと運動になる。みんな高齢者ですが草刈りやったりすると、みんなニコニコして楽しそうで、終わった後に補助金を使ってお茶でも飲んで。非常に楽しい。やっぱり世の中の役に立っているという気持ちを持てる活動は良いことだと思う。

小沢：また、会の活動を知ってもらわなければいけない。そこで、毎月大山川ニュースを発行し、紙やメールで伝えている。百数十人にメールで送っており、今回70回になった。地域の掲示板にも掲示している。見たくない人は見ないが、少しの人は見てくれると思い、続けている。

鳥居：私は、無償でやることを自分に言い聞かせて活動を始めた。だけど、今の人はちょっと考え

方が違ってきた。今だけ金だけ自分だけという人が、入ってくるとうまくいなくなり中が崩れる。それを一番心配している。私自身は残りの人生を地域のために命を捧げる、それを言い聞かせている。ただ、それを表に出すとみんながついていけなくなるので、気持ちの中に収めて活動をしている。これを続けていきたいと思っている。

増田：活動はなかなか大変。継続していくのも大変ですし、今の若い人の気質が得にならないことはやらないというような感じである。ただ生物多様性は、実際に動いて、エンジョイしてなんぼのもので、実体験をどのように伝えていくかっていうのがすごく難しいと思う。



➤ 学校での環境教育

増田：水野先生はどうですか？

水野：鳥居さんと、ボランティアが少ないのは、タイパとかコスパとかの時代だからですかねと話をしていた。だが、中学生はまだ報酬を得て働く経験がないので、何かもらえるからやろうというふうには絶対したくない。中1の最初の活動では、何でこんな事やるのっていう子も、もちろん数人はいた。でも光ヶ丘中の生徒はすごく素直で、すごい一生懸命汗流して、整備した竹林を見上げて、めっちゃくちゃきれいって感じて、ちょっといいこと出来たと思っている。ボランティアは1歩が踏み出しにくいけど、学校行事の中で、最初やらされているうちに、やっていくうちに夢中になる。自分が手を入れた自然だからこそ、愛着が湧くのだと思う。そういう場を提供することが、将来子どもたちが、何かやってみようかなって思うきっかけになると思って、いっぱい刺激を与えてい

る。

増田：大学生はどうですか？

郡：大学生はボランティアに誘ってもなかなか来ないが、何かのメンバー同士とかスポーツチームとか、チームで行くとすごく働く。団体とかクラスでまとまって参加するのがやりやすい。授業で参加する場合、マイクロバスが必要になる。県やいろいろなところの補助をいただいてやっと現場に行くことが出来ている。15人ぐらいのメンバーがあれば、そこにうまく協力してもらってそれを毎年続けられるといいなと思う。

➤ 企業が参加するメリット

増田：企業がいろいろ生物多様性の保全活動をされているわけですが、一体どうやってうまく企業活動とつなげているのか、その辺りもちょうとわかりがわけていただきたい。

藤門：頭では大切だと分かっているけど、実際に活動へ参加する人は限られており、ボランティアもいつも同じメンバーになりがち。会社として強制することはできず、ボランティアであっても安全管理の責任があるため、マネジメントのハードルも高いのが現実。意識を変えていくことが課題だが、マネージャーだけでプレイヤーの意識を変えるのは難しく、互いの役割を明確にしながら、コミュニケーションを積み重ねて企業文化として根づかせることが理想だと思っている。ただ、実際にはなかなか簡単ではない。

宮田：学生も就職するなら社会や環境に貢献する会社に入りたいという声もある。当社も、企業理念から環境社会に貢献する会社と言うことで一貫してやって、それに紐づく活動として、生物多様性や環境の活動もしている。それが社員にも根づく、と、働きがいを持って働ける会社ということで、エンゲージメントも高まるし、学生向けのリクルート効果もある。そういうところをメリットとして活動している。働きがいのある社会に貢献できる会社ということを目指してやっていきたい。

増田：そろそろ時間になってしまいました。総括をお願いします。

8 総合ファシリテーター総括

特定非営利活動法人こまき市民活動ネットワーク
顧問 秦野 利基

➤ 幅広い世代に機会を提供することが重要

会社で、休日に竹林ボランティアに誘っても、1割2割の意識の高い人しか来ない。ただ、参加した人は、すごく楽しい、良かったと言ってくれる。そういう機会をちゃんと提供できるか、できないかが非常に重要と思う。本日参加の皆さんは企業、団体とも、機会をきちんと作って発信をしている。やりがいや楽しさに繋げるようなことをやって、それが生きる喜びや、働く喜び、人とコミュニケーションできる喜びになっている。その中に世代間の交流があると、次に繋がる。だから、小、中、高校生そして大学生の皆さんが、活動に参加してくれるのが非常に良いと思う。



こういった経験のある人が社会人になった時、興味のある人は何らかの活動に参加して、良いことをやってその心が満たされることになると思う。企業、団体、行政が連携して、そのような機会を作ることが大切だと思う。連携は非常に面倒くさいが、強固な連携じゃなくて、やりやすい緩やかな連携を持ちながら、やっていくことがすごく大切ではないかと思う。

➤ 企業による社会への貢献

活動には色々必要なものがあり、助成金など様々な手法があるが、そういうものに頼らなくても、いろいろな企業と団体のマッチングがあると、企業の得意な分野で、活動のサポートができる気がする。私どもは粉砕機を使っていたいている

が、その中で運搬車両なども自分の企業活動だけでなく有効に使っている。企業が得意な分野で、うまく社会の貢献に提供できるようになれば良いと思う。そのためには、継続がキーワードになると思うが、情報交換やマッチングの場を増やしていくことでうまく繋がってくると思う。

➤ 今後のダイアログの発展と地域の連携

今日は、増田先生から、古代からの地層の違いによって、マメナシの群落が発生したという話を伺った。時の流れの中で状況も変わってくるので、残すものと新しく作るもの、何を残しながら次をつくるために何をするのかを考えることを止めたら、多分すべてが止まってしまう。それを続けることが次の未来に繋がると感じた。

今回、CKD さんが、新たにダイアログに参加されたが、大山川つながりで、非常に近い考え方の中で、住友理工さんがイメージされている小牧モデルというのも、ある程度理解いただけたと思う。このような場に少しずつ人が増えて、さらに自然共生に興味がある企業も招きながら、もう少し時間を取って、いろんな方の活動事例を聞いて、間口を広げてオープンな形にしていくと、何か次の展開が出てくるのではないかなと感じた。

あいち生物多様性企業認証では、住友理工さんが優良認証にランクアップされ、素晴らしい活動を展開されている。小牧の中でこういうことに関われる企業が、1社2社と増えてくると、つながりがその効果を持って、市民の皆さんに広く知れ渡っていくと感じる。私の会社も、いつかトライしてみたい。

➤ 最後に

さらにいろいろな方たちと、連携を深めながら、小牧の環境がよくなるように、やっていければ良いと考えている。つなぐことはこまき市民活動ネットワークが得意なので、声かけていただければ、さらに仲間を増やすとか、情報発信とか、企業を新たにSDGsの関連で探したいとか、そんなご要

望もいただきながら、活動をますます未来に向けて紡いでいければ良いと思う。

以上、総括とさせていただきます。